

外国人留学生入学試験 2026 年度過去問題(日本語作文)

第 I 期 日本語作文

問. 次の文章は、「スマートフォンの影響」について脳科学者が説明した文章です。

①この文章を読んで、内容を200字以下で短くまとめてください。

②続けて、この文章の内容を取り上げながら、スマートフォンの利用について、親や国が子ども

に対するルールを作るほうがいいか、作らないほうがいいか、あなたの意見を書いてください。

400字以上、600字以下で書いてください。その意見の理由も具体的に書いてください(句読点も1字として数えます)。

オーストラリア政府がついに16歳未満の SNS 使用を規制しようとしています。悪い影響があるとは知りつつ、スマホ^{注1} を使ってしまう人も多はずです。実は、スマホが最も悪い影響を与えるのは、人間らしさを作る、脳の前頭前野^{注2} です。

前頭前野は、考える、理解するといった子どもたちが勉強で使う働きや、人とのコミュニケーション、感情のコントロールなどに大きくかかわっています。これまでの研究で、スマホを使う時間が長い子は勉強時間や睡眠時間とは関係なく学力が下がることや、脳の幅広い部分がほとんど発達しないことなどがわかってきました。

脳は本来ひとつのことにしか集中できませんが、スマホは多機能ですから、集中力に影響が出ます。海外の研究では、現代の人間の集中力は「金魚^{注3}以下」だという結果も出ています。

また、何かを調べる際も、紙の辞書を使うかスマホで見るかで、前頭前野の動きがまったく違います。ものごとを覚えておいて、必要なときに思い出すというのは、大変な作業なので、それをスマホがやってくれるなら任せよう、と脳は判断するのです。

ですから、スマホを使う目的が、情報を得ることなのか、学習することなのか、それを考えて、辞書とスマホを使い分けることが大切です。また、親はこれらのリスクをわかった上で、子どもにスマホを与えないと無責任です。

また、脳は使えば育ち、使わなければどんどんダメになっていきます。使うためには読書や、他人とのコミュニケーション、適度な運動が大切です。私たちはスマホに使われるのではなく、何のために使うのか、目的を明確にする必要があります。

とりわけ子どもたちには、1日の使用時間など自分でルールを作らせ、それを守らせることが大切です。やはり、オーストラリアのような規制も議論すべきでしょう。

注1 スマホ：スマートフォン(Smartphone)の短い形

注2 前頭前野：人間の、脳の前の部分の名前

注3 金魚：魚の一種類

(出典：「ついついスマホ・・・脳にどんな影響が？」『朝日新聞』2024年12月4日朝刊。なお、問題作成のため、一部省略・改変した。) 承諾番号(26-0371)

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる